



こんにちは

村田けい子

です

2016.9.9

No.67

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

生ごみのたい肥化事業、概要が報告される 9.5全員協議会

立科町では現在、佐久市・東御市と2市1町で構成する川西保健衛生施設組合でゴミ処理を行っています。施設が昭和56年建設で老朽化が進んでいます。このたび御代田町に近接する佐久市に、新たに新クリーンセンターを建設中です。新クリーンセンターが3年後の平成31年10月稼働予定に合わせ、現在の可燃ごみ搬出量を130トン減量する必要に迫られました。そのため可燃物の中の生ごみを焼却ではなく堆肥（たいひ）化して、減量と資源の有効活用を図ることにしています。

大変な台風被害
お見舞い申しあげます。



【堆肥化の概要】

- ① 生ごみを専用の袋に入れ、バケツなどに入れて運び、各地区分館に専用のダストボックスを置き、その専用のコンテナボックスの中に入れる。
- ② 立科町からの長和町への搬入の曜日は火曜日・金曜日とする。
- ③ 専用のごみ袋は「生分解性プラスチック」でできているため、袋ごと堆肥になる。1枚35円とする。
- ④ 生ごみは長和町の堆肥化処理施設（長門牧場の隣接地）で堆肥にして、無償で町民に配布予定。
- ⑤ 堆肥化に必要な経費は年額480万円程度を見込むが、新クリーンセンターへの搬入する可燃物が減るため、新クリーンセンターへの負担金はおよそ150万円削減の予定。したがって新たな負担は約330万円程度と見込む。
- ⑥ できた堆肥を保管する保管倉庫が新たに必要になる。



【全員協議会での議論あれこれ】

・資源循環型社会を創るという理念は良いが、生ごみ専用のごみ袋を新たに買って出すというのは町民の負担増になるのではないか。

・立科町の住民は畑やコンポストなどを利用しているため、生ごみの搬出量は少ないと思う。減量化を言うなら、コンポストを無料配布の方が安上がりではないか。

・生ごみ専用の袋が高すぎる。可燃物の袋に入れて出した方が安上がりとなれば、減量化が進むか。専用袋は少なくとも同じ値段か、安くしなければ、堆肥化は進まないのではないか。

皆さんのご意見、ご質問をお寄せください。



天日で干して
保存食



「鉄板の上に何か赤いものが・・・。」何だろうと近づいてみるとミニトマトが半分に切って干してありました。

3日も天日で干すと、50個くらいのものが高さ10cm位のビンに全部入ります。塩をぱらぱら振って天日干しにして、瓶に入れたらオリーブ油をたらしこんで保存食に。

暮らしの知恵ですね。私はどこかへ出かけるときにミニトマトをもっていきます。のどの乾いたときにおいしいこと。いつの間にかなくなっています。

【8月18日 豪雨災害のまとめ】復旧対策に補助があります。

農地、農業用施設の被害については町にご相談を 担当【農林課】【建設課】

時間最大雨量は 35.5mm (16:00~17:00) 24時間雨量 102.5mm (14:40~19:30)
(中央公民館裏のアメダスの雨量計による)

8月19日・22日 町職員が町内をパトロールし現地調査、8月25日 佐久地方事務所農地整備課による現地調査が行われました。8月26日には宇山区集会所において、被災者を対象とした説明会が行われました。10月末には国による災害の査定があり、国の補助対象かどうかの判定があるそうです。

【被災状況】畦畔・法面の崩落 国の補助対象 13か所 町単独補助 38か所
自力復旧 2か所 計53か所 (9月2日現在)

田 29か所 畑 22か所 水路2か所 (補助対象外 山林2か所、原野 1箇所)

<地区別被害状況> 蟹窪/12か所 大深山/12 立石・石川/9 笠取/小袋 7
和子/1 山部/2 真蒲/1 平林/1 外倉/4 牛鹿/2 塩沢/1 茂田井/1

被災された皆様にお見舞い申し上げます。

白樺高原国際スキー場に「動く歩道」、運営は白樺高原ホテル

冬場の誘客を増やす一環として、白樺高原ホテルはこの度、国際スキー場に幼児向けスキースクールを開設することとなりました。

昨年は暖冬で年末年始に雪がなく、スキー客が大幅に減少。ゴンドラやリフトを動かす索道事業会計も大幅な赤字となりました。雪が少なくともお客さんと呼べるようにと、この度白樺高原ホテルが、幼児向けのスキースクールのゾーンを開設することになりました。雪が無くとも、スキーの練習ができるように工夫された人工マットのゲレンデです。専用のスキー板を使用し「人工マットは雪よりもスピードが出ないので、恐怖感なく、スピードや斜面に徐々に慣れることができ」(説明資料より)るそうです。対象は幼児。

スキースクールで練習したあと、家族や幼児のリフト利用が期待できるとして、この度町は、このキッズ用スキースクールと一体に、「動く歩道」を設置する予定です。

*場所ゴンドラリフト乗り場のすぐ横。長さは30m、設置費用は約500万円(4,776千円)



雪がなくてもレッスンができるのがミソ。「動く歩道」の運営は白樺高原ホテルにお願いし、レンタル料をいただく予定です。

まだ詳細は決まっていますが、白樺高原にどうしても大勢訪れてもらいリフト利用客を増やすか、様々な知恵を絞っているというところです。

白樺高原への利用を増やすため、次々と施策展開!

- ①白樺湖畔をぐるっと回れるジョギングロードの整備(立科町分)
- ②蓼科第2牧場にクロスカントリーコースの設置
- ③電気自動車の急速充電(30kw)を第2牧場に設置予定。
- ④キッズ用のスキースクールに「動く歩道」と様々な提案がされています。先日行われたゴンドラナイト(星空観察会)もその一環だと思います。町民の誇れる財産である白樺高原。これから星空の美しい季節、紅葉の季節にもなります。みんなで訪れて、自然の恵みを満喫しましょう。

索道事業についてはまた、詳細をお知らせします。

